

村山首相の自衛隊合憲を表明と談話



代表質問に臨む村山首相。この後、「自衛隊合憲」を明言する。左は自民党の河野洋平副総理（肩書は当時）＝1994年7月20日、衆院本会議場

■自衛隊合憲 1994年7月20日、村山富市首相が国会の代表質問への答弁で「専守防衛に徹し、自衛のための必要最小限度の実力組織である自衛隊は、憲法の認めるものであると認識する」と述べ、

社会党の党首として初めて、自衛隊の合憲を表明。社会党は同年9月に臨時党大会を開き、自衛隊合憲に加え日米安保条約堅持を認めた。

■政治決断を迫られた時、村山氏は公邸の食卓にたたずんだ。傍らには娘が用意した故郷・大分のちりめんじゃこと大根おろしがあった。漁師の家に生まれた「庶民宰相」たるゆえんだ。

■村山談話 50回目の終戦青己念日にあたる1995年8月15日に閣議決定した村山富市首相による談話。「植民地支配と侵略によって、アジア諸国の人々に多大の損害と苦痛を与えた」と公式に植民地支配を認め、「痛切な反省の意」と「心からのおわびの気持ち」を表明した。第1次安倍政権を含め、歴代の内閣が受け継ぎ、政府の公式見解となっている。